

# HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences

## 目次

<b>Preface 巻頭言</b>		
「医系科学研究科長を拝命して」	丸山 博文	1
<b>Greetings 副研究科長ご挨拶</b>		
「貴重な大学院時代を大切に」	中野由紀子	2
「研究者間の連携強化による研究推進」	古武弥一郎	2
「医系科学研究科のさらなる発展を目指して」	岡村 仁	2
「国際化による研究力強化の推進」	藤井万紀子	2
<b>Greetings ご挨拶</b>		
「就任のご挨拶」	水野 智仁	3
「就任のご挨拶」	檜井 孝夫	3
「教育・研究力のある広島大学AROの構築に向けて」	杉山 大介	4
「医系科学研究科協力講座への参画のご挨拶」	丸山 史人	4
<b>Activities 新設講座紹介</b>		
「寄附講座「睡眠医学」について」	塩見 利明	5
「医療イノベーション共同研究講座について」	茶山 一彰	5
<b>My Motto 座右の銘</b>		
「歴史に学ぶ」	吉栖 正生	6
「求めよ、さらば与えられん」	梯 正之	6
<b>Prize Winner 各賞受賞者紹介</b>		
「令和3年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞(理解増進部門)」を受賞して」	香西 克之・岩本 優子	7
<b>Excellent Paper すぐれた論文</b>		
「慢性蕁麻疹の病態における血液凝固系・補体系の役割解明」	柳瀬 雄輝	8
「リゾリン脂質分解酵素Gdpd3による慢性骨髄性白血病(CML)幹細胞のリポオリシティ制御」	仲 一仁	9
<b>Research Frontline 研究最前線</b>		
「歯周炎は非アルコール性脂肪性肝炎の病態を増悪する」	宮内 睦美	10
「痛みと情動を繋ぐ分子メカニズム -DAMPsを標的とした新たな創薬研究-」	森岡 徳光	11
<b>Topics</b>		
「世界の卓越した女性の看護師・助産師のリーダー100人」に選出されました」	新福 洋子	12
<b>編集後記</b>	吉永 信治	12

## 医系科学研究科長を拝命して

大学院医系科学研究科長 丸山 博文



このたび、大段 秀樹研究科長の後任として、広島大学 大学院医系科学研究科長を拝命した丸山 博文です。よろしくお願い申し上げます。

本研究科は大段先生の強力なリーダーシップのもと、スムーズに医歯薬保健学研究科から医系科学研究科に発展を遂げました。この間、長年の懸案であった動物飼育施設の増築に目処が付き、研究室間の情報共有・情報交換のWebシステムとして「広大霞Lab Secretary」が開始されました。これらは疾患モデル動物・レンタルラボ・リソースの情報共有をキーワードに運用がなされる予定です。また横断的な分野間の連携・融合を図るべく活動が継続されている5つの学際的研究推進部会については、活動を「見える化」し、霞地区の研究活動を統括するべく研究推進委員会が研究科の組織として2020年度に設置されました。他分野との共同研究も見据えながらこれらを発展させていく必要がありますが、これからまさに運用に工夫を凝らしていく時期となったと思います。今後の発展への期待に私自身、胸を膨らませています。

ただ、この1年はCOVID-19対応で大幅に活動が制限されました。特に留学生の入国・出国には細心の注意が必要な状況です。しかしながらFace to Faceの討論・会議の機会は減少したものの、Web会議になったことで移動の負担が減少し、参加者が増加したというメリットもありました。今まさにワクチン接種が進められていますが、当面この状況は続くと思われ、研究科としてもオンラインでの授業を増加させ、遠隔地での修学が可能となるような取り組みを進めていきたいと考えます。また外国人留学生を積極的に受け入れていますが、それに伴い英語での授業をさらに実質的に拡大させていく必要があると考えています。引き続き、地域に根ざしつつ世界に通用する研究者の育成に努める所存です。

大学全体としては第3期中期目標・中期計画の最終年度にあたり、6年間のまとめと次の第4期中期目標・中期計画へ向けて発展していく時期となります。スーパーグローバル大学創成支援事業(トップ型)の支援も残すところ3年となりましたが、今後はSDGs(Sustainable Development Goals,持続可能な開発目標)についても目配りが必要になります。教員数が全学の約1/4を占める本研究科の使命は大きいものがあります。また人員配置については学術院の基礎領域長・専門領域長と緊密に連携していく必要があります。さらに放射線影響研究所の霞キャンパスへの移転は是非とも実現していただきたい案件です。

私自身は副研究科長・教育委員長を1年務めたのみで、研究科運営の経験が乏しい若輩者にすぎず、医系科学という巨大な研究科は、皆様のご協力がなくては運営できません。各部局との連携を密にし、その発展に精進する所存ですので、どうかよろしくお願い申し上げます。

